



日高山脈博物館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

通算 第48号 2018.2.

博物館資料の紹介 「5万分の1 地質図幅」

日本全国の地質図資料ですが、北海道の地質図幅発行率は、歴史と相まって全国一です。

「5万分の1地質図幅」(以下、地質図幅)は、日本全国を約1300の区画に分け、現地調査に基づいて作成された地質図とその説明書です。区画は、一部を除き国土交通省国土地理院発行の5万分の1地形図と同じものです。現在においても、それぞれの区画について、未刊行であったり、最近刊行されたり、以前のものとの情報が更新されたりしています。

特に、北海道における地質図幅の刊行は著しく、北海道の全区画のうち98%も刊行されている状況です。地質図幅は、地質調査総合センター(旧地質調査所)が発行していますが、北海道では、国土交通省北海道局(旧北海道開発庁)や北海道立総合研究機構地質研究所(旧北海道立地下資源調査所)発行の地質図幅もあるため、ほかの区域に比べてカバー率が高いのだと思われます。明治時代から、北海道の開拓をするために、ライマンやその弟子たちの3年以上もの地質調査による、日本における本格的な広域地質図である「日本蝦夷地質要略之図」(1876)をはじめ、北海道に根差した地質学者が、

日高山脈博物館では、主に北海道の地質図幅を、寄贈などによって収集しており、北海道における未刊行以外のものは、ほぼ所蔵できています。図書室での開架は現在行なっておりませんが、地質図幅をご覧になりたい方は、博物館学芸員までお申し出ください。地質図幅のほか、地質関係資料の寄贈もいただけますと大変ありがたいです。

なお、これよりさらに詳細な地域の地質調査や研究などは、今でも地域に根ざした地質・岩石が専門の研究者や学芸員などが行なっており、それらは成果として日々反映されていきます。その地域の地質図幅があるから、その地域の地質の調査や研究が完全に終了したわけでもなく、研究や調査をする価値がないわけでもありません。自然科学は日進月歩なのです。



日高地域については、「日高」「千呂露」「岩知志」「幌尻岳」「御影」の5冊にわたって示されています。大区画が、札幌と釧路にわたっているところもおもしろいです。



門別地域については、「門別」「富川」「比字」「静内」「鶴川」の5冊にわたって示されています。